

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	コミュニケーション育成型 児童デイ グリーていんぐ		
○保護者評価実施期間	6年 2月 1日 ～ 7年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	6年 2月 1日 ～ 7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	7年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	トータルサポートで将来の不安の軽減を図っている	毎月の活動の中に、法人内の生活介護事業所や就労継続支援B型への作業所体験を取り入れたり体験、相談会を実施しており、卒業後の進路決定スムーズな移行ができるようにしている	将来だけでなく、現在の生活の中での保護者様の不安や困りごとを聞き取り、必要な福祉サービスを教示して繋げていくことで、ご家庭での生活の一助となるようにしていく
2	入浴サポート	生活の中で必要なADLを身につけられるよう、また清感、身だしなみを本児にも保護者さんへもサポートを行っている。	家庭で入浴が自立できるようご家庭での負担を少しでも軽減できるようにしていく。
3	二部屋あり静と動や環境によっても使い分けられる。	学習のニーズや運動のニーズ共に応える事が出来児童のストレスが軽減されている。 また、切り替えの部分で部屋を区切る事で気持ちを落ち着かせ琉事が出来る。	学習机も完備している為、座る体勢で体幹を鍛え頭の回転をスムーズに行えるようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	書類業務、事務作業の効率化	書類作成、記録に時間を要し、こどもたちとの関り、支援とのバランスが難しく 職員のもっと支援に比重を置きたいとの思いがある	書類業務は支援の土台であり、こどもたち一人一人の特性や成長を丁寧に振り返り 次の支援に活かす大切なプロセスが記録と書類整理であるという認識のもと データ化できるものは更に進めていながら効率化を図っていく
2	家族支援	定期的な懇談や送迎の際の時間やLINEにて児童の様子などの共有を行い、聞き取りを行っていますが児童の特性だったり保護者さんの限りある時間では充分に時間が取れていない	アンケートなどで保護者様のご都合の良い日にちや時間など余裕を持ってもらい、話が出来る環境を提示していく。
3	緊急対応	今まで経験はしておらず研修などを行っていますが突発的に起こる災害や事故に備えて必要備品の準備や高い安全性を考えて環境整備をしていく。	職員だけではなく、ご利用者様にも視覚的行動的にも動きに慣れてもらえるよう避難経路の確認をより慎重に行っていく。 後のフィードバックも行っていく。